

教科の目標

- (1) 自分の考えを大切に、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。
- (2) 自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。
- (3) 様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。

月	時	教材名	学習内容・指導事項	評価	価値	
6	4	2	明日	◎言葉の使い方や表現の特徴に注意し、自分なりの感想をもちながら読む。	関 喩的に表現された「明日」についてのイメージを生かし、楽しんで朗読しようとしている。	読 表現の特徴や、作者のものの見方や感じ方について、自分なりに感想をもっている。
	5		アイスプラネット	◎登場人物の言動や心情を表す表現などに注意して、作品を読み取る。 ◎作品に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。	関 学習の課題に沿って作品を読み、情景や登場人物の気持ちを想像しようとしている。	読 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解している。
	3		枕草子	◎日本の四季を描いた情景描写の巧みさを読み取り、作者の四季の捉え方や感じ方について自分の考えをもつ。 ◎伝えたいことを明確にし、自分の季節感が効果的に伝わるように、描写や構成を工夫して書く。	関 社会生活の中の事柄について、自分の意見を明確にして批評文を書こうとしている。	書 分析のための観点を示し、判断や批評の根拠を明確にし、資料を適切に引用して、説得力のある構成で批評文を書いている。
7	4		説明の仕方をくふうしよう	◎目的や相手に応じて、伝える事柄の特徴や共通点・相違点などを明確にして、必要な情報を整理する。	関 B 事柄が効果的に伝わるように、説明のしかたを自分なりに工夫しようとしている。	書 B 目的や相手に応じて情報を整理し、説明する事柄の特徴を明確にしている。
	2		言葉1	◎類義語と対義語、多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意する。	関 類義語・対義語・多義語に興味をもって授業に取り組もうとしている。	言 類義語・対義語・多義語の意味について、具体例に当てはめて理解している。
	2		書写	◎行書の特徴。	関 掲示、文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる	
	2		要点を整理して聞き取る	◎類義語・対義語・多義語の意味について、具体例に当てはめて理解している。	関 情報を的確に聞き取るための工夫について考え、話の要点をメモに取るようとしている。	聞 情報を的確に聞き取り、要点を押さえたメモを作成している。
	5		やさしい日本語	◎文章の全体と部分の関係や具体的事例の役割などに注意して読み、内容を理解する。 ◎情報の伝え方に関する文章を読み、構成や展開の工夫や、筆者の考えについて、自分の考えをもつ。	関 文章を読んで人に情報を伝えるために大事なことは何か考え、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。	読 文章の全体と部分の関係や具体的事例の役割に注意して読み、内容の理解に役立っている。
	2		発表資料を工夫しよう	◎わかりやすい発表や説明を行うために、図表やグラフなどを活用して、効果的な資料を作成する。	関 自分なりに工夫して、発表資料を作ろうとしている。	書 示された観に沿って文章を見直し、文章全体を整えている。
	5		プレゼンテーション	◎聞き手の知りたいことを想定して情報を集め、論理的でわかりやすい構成を考えて説明する。 ◎資料や機器を活用し、写真や図表などと言葉を効果的に組み合わせて説明する。	関 グループの話し合いに進んで参加し、聞き手を意識したプレゼンテーションを行おうとしている。	聞 聞き手を意識し、資料や機器を活用してわかりやすく説明している
2		漢字1	◎熟語の構成について理解する。	関 熟語の構成について興味をもち、理解しようとしている。	言 熟語の主な構成について理解している。	
2		書写	①掲示、文字の大きさや配列に気をつけて書く。	関 1、掲示、文字の大きさや配列に気をつけて書くことができる。		
8	4		新しい短歌のために	◎短歌に示された語句の効果的な使い方や文章の描写の効果を理解し、情景を想像しながら朗読する。 ◎心情が伝わるように、描写を工夫して短歌を創作する。	関 短歌の形式や表現に興味をもち、その世界に親しもうとしている。	読 語句の使い方や描写の工夫に触れながら、短歌を読み味わい、感想をまとめている。
	2		言葉を選ぼう	◎似た気持ちを表す言葉を比べ、言葉の持つ意味について考え、語感を磨く。 ◎言葉の微妙な違いが効果的に伝わるように描写を工夫して物語を書き、交流を通して自分の考えを広げる	関 似た気持ちを表す言葉に興味をもって、意味や用例を調べようとしている。	書 選んだ言葉の微妙な違いが伝わるように、物語にまとめている。
	2		言葉を選ぼう	◎似た気持ちを表す言葉を比べ、言葉の持つ意味について考え、語感を磨く。 ◎言葉の微妙な違いが効果的に伝わるように描写を工夫して物語を書き、交流を通して自分の考えを広げる	関 似た気持ちを表す言葉に興味をもって、意味や用例を調べようとしている。	書 選んだ言葉の微妙な違いが伝わるように、物語にまとめている。
9	3		文法への扉1	◎活用のある自立語と活用のない自立語の働きを理解する。	関 言葉の決まりについて興味をもち、単語の分類について理解しようとしている	言 自立語の位置や語形、働きについて理解し、練習問題をおおむね正確に解いている。
	5		メディアと上手に付き合うために 気になるあの人を探ろう	◎メディアとの付き合い方について書かれた文章を読み、メディアについて知識や体験と関連づけて自分の考えをもつ。 ◎多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。	関 メディアの特徴に興味をもち、付き合い方について考えたり、情報を集めたりしようとしている。	読 メディアの特徴を理解し、さまざまなメディアから集めた情報を整理して自分の考えをまとめている。
			旅する絵描き	◎方言や心情を表す語句の効果的な使い方を理解し、表現に即して優しさや温かさなどを読み味わう。	関 登場人物の人物や思いを文章表現から読み取ろうとしている。	読 抽象的な概念を表す語句や描写の効果に着目して読み、自分なりの感想をもっている。

	5		◎描写の効果、登場人物の言動の意味などに注意し、人柄や心情を読み取る。	読 方言などの語句の使い方や描写の効果に着目し、登場人物の人柄や心情を捉えながら作品を読み味わっている。作品を読み味わっている。
	3	字のない葉書	◎人物の言動や様子を描いた表現、心情を表す語句に着目して読み、その人柄や心情を捉える。 ◎筆者の父親への思いや、父親の家族への愛情を読み取り、家族のきずなや人間関係について自分の考えをもつ。	読 B父親に対する「私」の思いや家族のきずなを表している表現を探そうとしている。 読 人物の言動や心情を表す語句の効果的な使い方に着目して父親への「私」の思いを読み取り、家族のきずなに対する筆者の考え方と比べながら自分の考えをまとめ、友達と交流している。 言 慣用句や多義的な意味を表す語句などにも着目して読んでいる
	2	言葉2 敬語	◎日本語の敬語表現の特徴について理解を深め、その使い方を身につけ、相手や目的に応じて言葉を工夫することの大切さに気づく。	関 コミュニケーションにおける敬語の役割を理解しようとしている。 言 敬語には丁寧語・尊敬語・謙譲語があることを理解し、相手に応じて使っている。
	4	手紙を書く	◎伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるように表現や構成を工夫して手紙を書く。	関 手紙の特徴や書式に関心を持ち、受け取る相手の気持ちを考えて書こうとしている。 書 伝えたい内容を明確にし、効果的に伝わるように表現や構成を工夫して書いてみる。
11	2	相手の立場を尊重しよう	◎相手の立場を尊重し、自分の意見と比較しながら話し合う。	関 相手の立場を意識しながら自分の意見を述べようとしている。 聞 相手の立場を尊重して話し合っている。 言 適切な話し言葉や敬語を意識している
	4	君は最後の晩餐を知っているか	◎初めて知ったことや興味をもったところなどを、知識や体験と関連づけながら確認し合い、文章中のものの見方や考え方について自分の考えをもつ。 ◎使われている言葉や表現の工夫などに注意しながら、筆者のものの見方や考え方を読み取る。	関 筆者のものの見方や考え方が、どのように叙述されているか読み取ろうとしている。 読 筆者の着眼点や言葉の使い方、論理展開などに着目して読み、筆者のものの見方や考え方について自分の考えをもっている。 言 重要な役割をもつ抽象的な語句に着目し、どのような意味で使われているかを考えている。
	1	音読を楽しもう 平家物語	◎冒頭部分を音読することで古文の表現に慣れ、古典の世界を楽しむ。	関 「平家物語」冒頭部分を音読して、作品の世界を楽しもうとしている。 読 冒頭部分の内容から当時の無常観という考え方について、感想をもっている。 言 「平家物語」の独特の調子とリズムを捉えながら音読している。
	5	扇的	◎古典の文書を朗読して、その独特の調子やリズムに慣れ、作品を楽しむ。 ◎登場人物の心情を想像しながら作品を読み、古典に描かれたものの見方や考え方について自分の考えをもつ。	関 「平家物語」のもつ独特の調子やリズムを意識して朗読し、登場人物の心情を知ろうとしている。 読 内容を読んで、登場人物の心情や、平家と源氏の戦に対する考え方の違いなどについて感想をまとめている。 言 作品の朗読を通して、登場人物の心情や情景の描写などについて理解している。
	2	書写	①行書と仮名の調和。	1、行書と仮名の調和が取れている。
	2	仁和寺にある法師	◎古典の文章を朗読してその表現に慣れ、作品を読み味わう。 ◎描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、作者のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。	関 「徒然草」の表現に慣れ親しみ、内容について理解しようとしている。 読 「徒然草」を朗読し、表現を味わいながら、作者の考え方について、自分の感じ方と比較して感想をまとめている 言 「徒然草」を朗読し、登場人物の行動や心情について理解している。
	3	漢詩の風景	◎漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。 ◎漢詩とその解説文を読み、詩の情景や人物の心情を想像するとともに、漢詩特有の表現について考えをまとめる。	関 漢詩特有の言葉遣いや調子に親しみ、詩に描かれている情景を考えようとしている。 読 漢詩三編と解説文を朗読し、漢詩独特の言い回しに慣れ親しみながら、詩の情景や人物の心情を想像している。 言 漢詩特有の言葉遣いや調子を知り、リズムを味わいながら朗読している。
	3	人物の特徴を捉えて論じよう	◎古典作品に登場する人物の特徴を捉え、伝えたいことを明確にして文章に書き表す。 ◎書いた文章を互いに読み合い、自分の考えを広げる。	関 古典作品の中の人物について、特徴を捉えて文章に書き表そうとしている。 書 人物の特徴を明確にして、読み手のことを意識して文章を書いている。 言 作品に登場する人物について考え、自分の考えを述べている。
	5	パネルディスカッション	◎社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定して考えをまとめ、説得力のある意見を述べる。 ◎相手の立場や意見を尊重しながら目的に沿って話し合い、互いの考えを生かし合う。	関 社会生活からテーマを設定し、自分の考えをまとめ、話し合いに参加しようとしている。 関 異なる立場を想定して考えをまとめ、説得力のある根拠を述べている。 関 分の役割を自覚し、他のグループの意見にも耳を傾けている。 言 自分の意見を整理し、説得力が出るよう構成を考えて発言している。
	6	文法への扉2	◎用言の活用について理解する。	関 規則的な語形変化に関心を持ち、用言の活用を理解しようとしている。 言 活用形の種類と用言の活用の種類を理解している。
	3	4	書写	①行書の特徴を生かして書く。
6		モアイは語る	◎各段落の役割や叙述の順序に注意して読み、内容を理解する。 ◎構成や展開の工夫について考え、筆者のものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。 ◎関心のある社会問題について、根拠を示しながら意見を述べる。	関 イースター島の出来事について、筆者が主張をしていることを読み取ろうとしている。 読 前半部分の構成の工夫や、図や写真の効果的な使い方について注意しながら文章内容を理解し、後半の筆者の主張との関係を考えながら、筆者の考え方に対する自分の考えをまとめている。 書 テーマについて、具体例やデータを挙げながら意見を述べている。 言 筆者が文章の形態や展開についてどのような工夫をしているか考えている。
4		意見文を書く	◎課題に対する自分の意見を決め、立場とそれを支える根拠を明確にし、構成を工夫しながら意見文を書く。 ◎書いた文章を読み合い、意見を交換する中で読み返し、わかりやすい文章になっているか推敲する。	関 自分の立場や意見が伝わるように、根拠を明らかにして文章を書こうとしている。 書 自分の立場を決め、根拠を明らかにして、構成を工夫して文章を書いている。
2		漢字2	◎同音異義語など、読み方が同じでも、意味・用法の異なる漢字や熟語について理解する。	関 漢字の訓や音に関心を持ち、漢字について理解を深めようとしている。 言 練習問題の漢字をもとに、漢字の訓や音について理解し、同じ読みの漢字を用いて短文を作っている。
7		走れメロス	◎語句の効果的な使い方を理解し、表現の巧みさを読み味わい、描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる。 ◎表現のしかた及び主人公の考え方について、根拠となる部分を挙げて自分の考えをもつ。(読(1)ウ) ◎文章の形式を選び、表現のしかたを工夫して書く。	関 登場人物の行動や考え方について自分の考えをもとうとしている。 読 登場人物の変化を読み取り、作品に描かれた「友情」や「正義」に対する考え方と自分の考えを比べている 書 文章の題材と形式を選び、形式に応じて文章を書いている。 言 抽象的な概念を表す語句や難語句に関心を持ち、語句の意味について調べている。 言 問題に取り組み、漢字をおおむね正しく読んだり選んだりしている。
3		文法への扉3	◎付属語について理解する。	関 付属語について関心を持ち、働きと種類を理解しようとしている。 言 助詞と助動詞について整理した内容を理解している。

4	視点をえて物語を書く	◎気持ちや気持ちの変化が効果的に伝わるように、ある視点を定め、表現を工夫して書く。	<p>関 自分の生活の中から視点を定め、気持ちの変化が効果的に読み手に伝わるように、表現を考えて書こうとしている。</p> <p>書 身近な生活から取材し、気持ちの変化が効果的に伝わるように描写や構成を工夫して書いている。</p> <p>言 気持ちを効果的に伝えるために、語句や文章表現などに気をつけている。</p>
2	言葉3	◎方言と共通語の果たす役割について理解する。	<p>関 方言や共通語に関心をもち、それぞれの使われ方について考えようとしている。</p> <p>言 方言と共通語の違いについて理解している。</p>
2	漢字3	◎送り仮名の付け方の原則を理解する。	<p>関 送り仮名の付け方に興味をもち、理解しようとしている。</p> <p>言 送り仮名の主な原則について理解している</p>
6	身近な人の「物語」を探る	◎題材を決め、話の構成や展開などに注意して、話の要点を聞き取る。 ◎題材を決め、事実や意図が効果的に伝わるように、構成や表現を工夫して書く。	<p>関 どんなものにも「物語」があることを理解して、インタビューや文集の活動に取り組みようとしている。</p> <p>関 事前に検討した質問項目をもとにインタビューを行い、話の構成や展開などに注意して、要点を聞き取っている。</p> <p>書 集めた情報を整理し、読み手にわかりやすく伝えるように書いている</p> <p>言 話し言葉と書き言葉の違いを意識してインタビュー内容をまとめている。</p>
3	言葉の力	◎筆者の考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。	<p>関 自分の言葉の使い方を見つめ直し、言葉と人との関わりについて考えをまとめようとしている。</p> <p>読 挿話と筆者の考えがどう関連しているのかを捉え、自らの言語生活を振り返っている</p>

140

【評価の観点・方法】

1. 国語への関心・意欲・態度 …… 課題への取り組み方、授業への参加の姿勢、提出物などで評価します。
2. 話す・聞く能力 …… 目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり、話の内容を的確にききとっているかで評価します。
3. 書く能力 …… 作文・ノートを通して、読みやすく、わかりやすい文章を書いているか評価します。
4. 読む能力 …… 様々な文章を読み、その構成・展開をとらえているかで評価します。
5. 言語についての知識・理解・技能 …… 文法・漢字テストなどを中心に評価します。

書写では文字を正しく整えて丁寧に書くことができるかで評価します。